定時評議員会承認済

令和 3(2021)年度
事業報告

令和　3 年　4 月　 1 日から

令和　4 年　3 月　31 日まで

公益財団法人　日本尊厳死協会

東京都文京区本郷二丁目 27 番 8 号

日本尊厳死協会の活動目的

日本尊厳死協会は、「 終末期における医療の選択の権利を守ることができる社会の実現をめざして、リビング・ウイルの理解と普及をはかり、ひろく市民の人権の確立とその尊重に寄与する。」 という基本的な考えを実現するための活動を推進しています。

Ⅰ.事業の総括

令和3(2021）年度事業計画に則り、実施した内容を以下に報告する。

1.普及啓発事業

(1) 人生の最後段階をどう過ごすのか、本人の希望を周囲が正しく受け入れられるよう、「リビング・ウイル」の必要性を説く活動は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う緊急事態宣言、外出自粛要請等の影響により減少した。一方で、テレビやラジオ、zoom 等のオンラインを活用した普及啓発活動は、本部・支部及び県組織で拡大・定着することができた。令和3年度の講演会、セミナー及び出前講座の総数は、75 回で参加者数が 2,041 名（前年度は開催数 62 回、参加者数 636 名)であった。

(2) 受容協力医師数拡大は、3,000 名を目標としたが、年度末登録数は 2,057 名で前年度に比べ 45 名増で未達であった。

(3) 新たな事業として、会員による看取り体験談やリビングウイル受容協力医師情報など、人生の最終段階における意思決定決定支援に役立つサイト「小さな灯台プロジェクト」を 12 月 11 日に立ち上げた。また、本部事務局や関東甲信越支部等の書棚に並んでいる「生と死」に関する書籍が 1,000 冊を超えたことから、自分や親の最期を考える時のヒントになり、こころの支えになるよう「日本尊厳死協会の書籍紹介」としてホームページに公開した。

2.登録管理事業

(1) 年度末登録会員数は 94,401 名で、前年度に比べ 6,244 名減少した。新規入会者数は、2,159 名(前年度は 2,664 名)で 505 名減少、一方の退会者数は、8,403 名(前年度は 8,227 名)となり、会員数減少には歯止めがかけられず大変厳しい状況となった。

(2) 令和2年 10 月から開発してきた次期会員管理システムは、これまでの協会内サーバーからクラウド化へ変わり、基幹会員管理システム、ドキュメント管理システム及び、WEB 会員管理システムの構成で、令和3年 12 月に全稼働した。

3. 調査研究及び提言事業

(1) 本部と九州支部で、いずれもオンラインであるが、「日本リビングウイル研究会」を開催した。本部での開催内容については、会報 No185(令和4年4月号)に掲載した。

(2) 新たな事業として、「人生の最終段階における臨床経過並びに死の兆候に関する研究」をするにあたり、協会の LW 受容協力医師から死の兆候に関するアンケートを実施した。また、創立から 45 周年を経た今、協会活動を振り返り、過去の国会議事録から尊厳死についての議論が衆参両院でいかになされてきたかの情報をホームページに掲載した。

4. 管理部門

(1) 有識者と協会役員からなる「リビングウイル検討委員会」からの答申を踏まえ、新しい時代

に対応した協会リビング・ウイル、定款及び組織等を見直す委員会として、理事と支部長からなる「リビングウイル改定委員会」が発足した。同委員会では、オンライン方式にて計8回にわたり議論がされた。令和3年11月20日開催の理事会において、定款第3条(目的)、第4条(事業)の改定は、承認を得て評議員会へ回し、「協会リビング・ウイル　－終末期医療における事前指示書－」の改定を承認、組織改革は、定款第50条(委員会)に基づき、4委員会（①普及啓発、②学術調査研究、③広報メディア、④会員サービス）の設置を承認した。4委員会は、15のプロジェクトに分かれ、具体的な施策・提案を検討している。併せて、協会のデジタル化を推進する目的で、タフト株式会社と業務委託契約を行った。

(2) 令和2年11月28日の理事会での「ウイズコロナ時代の法人組織の見直し」の決議による支部の固定費の見直しについては、職員の退職に併せ、北海道支部事務所を令和3年6月末、中国地方支部事務所を令和4年3月末にそれぞれ閉鎖した。

(3) 財務面では、令和3年度経常増減額予算では1,645万円の赤字と策定したが、実績値は、収益面では大口寄付、費用面ではコロナ禍での活動自粛等により、経常増減額は1,300万円の黒字となった。

Ⅱ.事業活動

1. 普及啓発事業

市民への「リビング・ウイル」の普及啓発と適正な理解を深める事業

(1) リビングウイルの普及啓発

① 普及活動

支部・県組織が開催するリビングウイルの普及啓発と正しい理解を深める活動は、計画では、講演会30回、セミナー150回及び出前講座100回としたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策に伴う緊急事態宣言や不要不急の外出自粛等により、実績は、講演会12回、セミナー39回及び出前講座24回に留まった。一方、オンラインでの講演会等や動画配信での活動が拡大とともに定着してきた。支部別、項目別実績は下表のとおりである。

<令和3年度累計開催・累計参加者一覧>　(単位：回、名)

項目	講演会		セミナー等		出前講座		3年度計		2年度計		前年
	回数	参加	回数	参加	回数	参加	回数	参加	回数	参加	参加差異
北海道	1	205	3	40			4	245	4	91	154
東北	1		4	23	5	91	10	114	4	23	91
関東甲信越	2	196	26	215	3	68	31	479	28	365	114
東海北陸	1		6	58	1	26	8	84	4	20	64
関西	2	416			3	65	5	481	2	15	466

中国地方											
四国	4	135			1	7	5	142	5	108	34
九州	1	244			11	252	12	496	3	14	482
計	12	1,196	39	336	24	509	75	2,041	62	636	1,405

<講演会>

支部	開催日時	講師	テーマ
北海道	zoom 講演会 令和 4 年 1 月 22 日(土) 15:00～	西村正治氏（豊水総合メディカルクリニック医師、北大名誉教授）	ひとりの臨床医としてヒトの死について想うこと ～なぜ尊厳死協会に入るに至ったか～
東北	Web 講演会 令和 3 年 11 月 5 日(金) 公開　収録配信	川島隆太氏（東北大学加齢医学研究所所長）	認知症は、予防・改善できる!?
関東甲信越	・オンライン講演会 令和 3 年 8 月 28 日(土) 14:30～ オンライン講演会 ・令和 4 年 1 月 30 日(日) 14:00～	鈴木　央氏（鈴木内科医院院長） 岡崎史子氏（東京慈恵会医科大学教育センター総合診療部准教授）	最期まであなたらしく過ごすために ACP(人生会議)と尊厳死について ～人生会議の舞台裏　医者が人生会議をどう開催するのか～
東海北陸	WEB 講演の再構築、要約 (令和 2 年 10 月 20 日収録)	大河内章三氏（介護支援専門員）	今あなたに伝えたい 日本一わかりやすいアドバンス・ケア・プランニング
関西	・オンライン講演会 令和 3 年 4 月 25 日(日) 13:30～ ・zoom 市民講演会 令和 3 年 11 月 14 日(日) 14:00～	・関本　剛氏（関本クリニック院長） ・清水正克氏（清水メディカルクリニック副院長 諫山憲司氏（明治国際医療大学救急救命学科教授） (座長) 清水正克氏（清水メディ	・がんになった緩和ケア医が語る『残り 2 年』の生き方、考え方 ・コロナ禍が在宅医療に与えたもの 救急医療情報キット(命の宝石)とリビングウィル

		カルクリニック副院長	
四国・愛媛 四国・香川 四国・愛媛 四国・徳島	・公開講演会 in 愛媛 令和 3 年 10 月 7 日(木) 17:30～　　対面と zoom ・リビンクウイル香川懇談会　令和 3 年 11 月 3 日(水) 13:30～　対面と zoom ・第 23 回コムズフェスティバル 令和 4 年 2 月 5 日(土) 10:00～　ケーブルテレビ配信 ・令和 3 年度徳島市家族介護教室市民公開講座 令和 4 年 2 月 10 日(木) 20:00～他　テレビトクシマ・国府町ケーブルテレビ放送配信	小澤竹俊氏（めぐみ在宅クリニック院長） ・上田利枝氏（一般社団法人キラメキ社会福祉士事務所代表理事） ・西口　潤氏（あさひクリニック院長兼四国支部長） ・園部漢太郎氏（このはな脳とこころの診療所副院長） ・山口　修氏（愛媛大学大学院医学系研究科教授） ・寺嶋吉保氏（JA 徳島厚生連阿南医療センター病院長補佐兼緩和ケア内科部長 ・木下英孝氏（木下ファミリークリニック院長）	死を前にした人にあなたは何ができますか?　ベストサポーティブケアの本質 ・独立型社会福祉士の看取り　～もしバナゲーム体験～」 ・「私の希望証明書」の書き方 人生の正しいお迎えを考える　～高齢者医療と心不全について～ 「人生会議」してみませんか?
九州・長崎	オンライン市民公開講座 令和 3 年 10 月 9 日(土) 14:00～　対面と zoom	藤川幸之助氏（詩人、児童文学作家）	支える側が支えられるとき～認知症の母の命を看取って～

<上述に含まれるオンラインでの活動>

組織	分類	イベント名	補足
北海道	講演会 セミナー	zoom 講演会 リビングウイル作成講座	年 1 回 年 1 回
東北	講演会	Web 講演会	年 1 回
関東甲信越	講演会 セミナー 教育 出前講座	オンライン講演会 オンラインサロン 協会内オンラインセミナー研修 南アルプス市内、武蔵野市内	年 2 回 年 7 回 年 8 回 年 2 回
東海北陸	出前講座	松阪市内	年 1 回

関西	講演会	公開講演会オンライン、zoom 市民講演会	年 2 回
四国	講演会 講演会 講演会 講演会	リビングウイル香川懇談会 公開講演会 in 愛媛 第 23 回コムズフェティバル 令和 3 年度徳島市家族介護教室市民公開講座	年 1 回、Web と会場 年 1 回、Web と会場 年 1 回　Web 年 1 回　テレビとケーブルテレビ
九州	講演会	オンライン講演会市民公開講座	年 1 回、Web と会場の併用

<上述に含まれない動画等>

組織	イベント名
北海道	宮本支部長制作 ・認知症と尊厳死 ・日本と欧米諸国の高齢者終末期医療の違い ・米国の「終身ケアを提供する退職者コミュニティー(CCRC)における終末期医療 ・人生最後の医療を考える　Ⅰ.終末期医療について ・人生最後の医療を考える　II.自分の意思を残した人たち
東北	支部理事が制作 ・リレーエッセイ　今田かおる支部理事 ・リレーエッセイ　山川真由美支部理事 ・リレーエッセイ　藤田　紀子副支部長 ・リレーエッセイ　三浦　亮支部理事 ・リレーエッセイ　齊藤　和好支部理事

②　本部支部では、メディアを利用した啓発活動を積極的に導入実施した。

ア）本部

放送枠：TBS ラジオ　「家族で考えよう！　リビング・ウイル」

毎週木曜日「アシタノカレッジ」内、23:30～10 分程度

▽　1 回目の放送

・放送日程：　11 月 25 日、12 月 2 日、9 日、16 日、23 日の計 5 回

・出演：岩尾理事長、長尾副理事長、北村専務理事

・進行：安東　弘樹氏（フリーアナウンサー）

・内容：リビングウイルの基本、人生会議とは何か

▽　2 回目の放送（反響編）

・放送日程：　3 月 10 日、17 日、24 日、31 日、4 月 7 日の計 5 回

・出演：岩尾理事長、長尾副理事長、北村専務理事

・進行：安東弘樹氏（フリーアナウンサー）

・内容：前回放送に対する質問への回答等

イ）北海道支部

宮本支部長が北海道文化放送の「のりゆきのトーク DE お悩み解決！」に出演

・1 月 21 日　あなたが望む終末期医療　リビングウイルでお悩み解決

・2 月 4 日　　リビングウイル第 2 弾　延命措置　私・家族の選択

ウ）四国支部徳島県組織

徳島市との共催で「令和 3 年度 徳島市家族介護教師　市民公開講座」を開催し、テレビトクシマと国府町ケーブルテレビにて、2 月 10 日から同月 22 日までの期間に配信した。

③ 活動結果は、月次で支部長や出前講座担当者へ情報連携され、新たな普及啓発先の開拓や手法の生み出しに反映している。また、毎号の会報では、「リビングウイル「出前講座」はいかがですか」の広報を掲載している。

※別添資料･･･令和 3(2021) 年度支部事業報告

(2) 受容協力医師

① 受容協力医師数は、患者と医療者を繋ぐシステム「小さな灯台プロジェクト事業」の稼働に併せて 3,000 名体制を目標とした。会報での「LW 受容協力医師をご推薦ください」や「ご遺族アンケート」によるご遺族からのご紹介及び朝日 MOOK の「さいごまで診てくれるいいお医者さん」等により、医師への登録要請作業を行ったが、前年度に比べ 45 名増に留まった。

② ホームページに掲載中の受容協力医師検索は、これまでパスワードが必要であったが、「小さな灯台プロジェクト」稼働により、誰でも自由に検索できるようにした。

<受容協力医師登録数>　　（単位：名）

支部	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	2 年度	3 年度	前 年 差異
北海道	55	77	77	80	80	82	2
東北	58	57	58	57	65	59	▲6
関東甲信越	514	615	648	647	651	689	38
東海北陸	122	161	164	165	167	177	10
関西	137	143	145	144	149	149	－
中国地方	64	101	204	250	249	249	－
四国	381	382	376	371	364	360	▲4
九州	187	245	255	274	287	292	5
合計	1,518	1,781	1,927	1,988	2,012	2,057	45

(3) 会報

① 会報は、年4回の発行を継続した。著名人との会報インタビューは、同時に動画としても撮影し、ホームページでも閲覧できるようにした。

② 会報のバックナンバーは、ホームページにて公開中。

③ 令和3年度の各号の主な記事は次の通りである。7月号に掲載された顧問の倉本　聰氏の緊急提言「そして、コージは死んだ」の反響が大きく、同月号では、理事長、理事・顧問医からの考えを、10月号では、「LWのひろば」で、倉本　聰氏の緊急提言に想う」の特集を組み、1月号では、「LWのひろば」で投稿を掲載した。さらに、会員の奥川光寿様は、自費で「そして、コージは死んだ」の小冊子を作成し、協会へ500部無償にて納品していただいた。

掲載月	会報号	会報『Living Will』の主な記事
令和3年 4月号	No181	・第9回日本リビングウイル研究会(オンライン会議)抄録 テーマ：パンデミックと尊厳死 －コロナとの共生に向けて ・2020年「ご遺族アンケート」結果 ・LWのひろば ・支部活動・報告 ・映画「痛くない死に方」　－監督、出演者、原作者が語る「私が思う最期のあり方」－ ・電話・メール医療相談から⑦　－ともにコロナ禍を乗り越えましょう－
令和3年 7月号	No182	・巻頭インタビュー　髙橋伴明氏（映画監督)、高橋惠子氏（女優）　－最期は自然な形がいい－ ・尊厳死の法制化に向け、超党派の議員連盟が再スタート ・「最期の医療のあり方」を考える支援事業をスタート ・協会顧問 倉本 聰氏が緊急提言 －そしてコージは死んだ－ ・21年度事業計画・予算決まる ・2021年度日本尊厳死協会役員等名簿 ・LWのひろば ・支部活動・報告 ・2020年度「電話医療相談」結果
令和3年 10月号	No183	・インタビュー　田村　淳氏（ロンドンブーツ1号2号） －「母ちゃんの意思を尊重するのが親孝行」－ ・LW改定委員会の経過報告　－新しい時代に対応したLWに見直す－

		・LW のひろば　－【特集】倉本聰氏の緊急提言に想う－ ・支部活動・報告 ・電話・メール医療相談から⑧　－緩和ケアへの関心の高さを痛感－
令和 4 年 1 月号	No184 号	・年頭所感　岩尾總一郎理事長　－新時代に即応した体制へ ・インタビュー　柳田邦男氏（ノンフィクション作家） －「さよならのない別れ」をどう生き直すのか－ ・「小さな灯台プロジェクト」が誕生！ ・LW のひろば ・支部活動・報告 ・電話・メール医療相談から⑨　－90 歳代の方々からのリアルな声－

(4) メルマガ通信

① 会報の定期便配信は、新規会員が増えているが既存会員の退会も多く、横ばいである。既存会員の配信数を増やすため、会報 1 月号(No184 号)に、「メール配信登録のご案内」を掲載した。

② コロナ禍でオンライン講演会、オンラインセミナーが開催されるようになり、メルマガにて開催案内を発信した。反響が大きく参加者増に大きく寄与した。

<メルマガ発信数>　　（単位：件、%）

発信日	配信登録件数	成功数	失敗数	成功率
03 年 6 月(182 号)	6,807	6,649	158	97.7
03 年 9 月(183 号)	6,825	6,714	111	98.4
03 年 12 月(184 号)	6,760	6,749	11	99.8
04 年 3 月(185 号)	6,820	6,806	14	99.8

(5) ホームページ

① 小さな灯台プロジェクト

会員による看取り体験談やリビングウイル受容協力医師情報など、人生の最終段階における意思決定決定支援に役立つサイト「小さな灯台プロジェクト」を 12 月 11 日に立ち上げた。当初は、84 件の看取りのエピソードをアップしたが、令和 3 年 12 月からサイトアップするためのチームを作り、現在 104 件まで増加した。

② 書籍ライブラリー

本部事務局や関東甲信越支部等の書棚に並んでいる「生と死」に関する書籍が 1000 冊を超えたこともあり、「日本尊厳死協会の書籍紹介」としてホームページに公開した。自分や親の最期

を考える時のヒントとなり、こころの支えになるようにした。なお、カテゴリー別に検索できるようにした。

③ 活動計画・報告

本部では、日本リビングウイル研究会情報を、支部や県組織は、講演会等普及啓発に関わる情報をタイムリーに更新した。

(6) 出版事業

① 新刊として、「日本尊厳死協会の人生最後の相談(仮)」を企画していたが、株式会社ブックマンが中止を決定したことにより、発売には至らなかった。

② 書籍販売収益は、「リビングウイルノート」の販売が引き続き好調により収益的に貢献した。

<書籍販売リスト >

タイトル	販売部数	金額(円)
リビングウイルノート	450	488,900
新・私が決める尊厳死	100	109,900
あなたの痛み	32	33,110
リビングウイルガイド	14	2,800
DVD　－いのちの遺言状－	4	4,400
その他	18	17,500
計	618	656,610

(7) 電話、メール医療相談

① 看護師が市民からの専門的な医療相談からリビングウイルに関わる多様な迷い悩みをお聴きし、共に考え、助言し支援する活動を行っている。令和３年度の受電件数は、502 件（相談件数 1,159 件)で、会報 No186 号（令和４年７月)に掲載する。

② また、会報各号に掲載した電話・メール医療相談内容から抜粋した質問・対応は、下表の通りである。

<医療相談の内容>(相談１件につき複数の内容項目がある)　　(単位:件、%)

順位	相談(大分類)	相談(小分類)	件数	合計	比率
1	尊厳死医療相談	①医療機関・施設・家族との意思疎通やカード提出のタイミング	152		
		②現病と治療内容	135		
		③延命措置(人工呼吸器・栄養・補液・薬剤)	120		
		④尊厳死に関するメンタル	58		
		⑤救命医療と尊厳死	49		
		⑥セカンドオピニオン	4	518	45

2	メンタル	①日常の悩みや不満 ②精神疾患(医療機関受診中)	145 68	213	18
3	一般医療に関すること	症状・治療・薬について	214	214	19
4	医療機関・施設情報・その他の相談	①受容医 ②その他の医療機関 ③施設	64 38 18	120	10
5	協会に関すること	①LW やカード等事務的なこと ②協会への意見	56 26	82	7
6	その他		12	12	1
	計		1,159	1,159	100

<会報掲載の内容>

会報発行月	ケース
令和 3 年 4 月発行 No181 号	ともにコロナ禍を乗り越えましょう
令和 3 年 10 月発行 No183 号	緩和ケアへの関心の高さを痛感
令和 4 年 1 月発行 No184 号	90 歳代の方々からのリアルな声

(7) 支部長会議

リビングウイル改定委員会での「支部単位普及活動」、「リビングウイル受容医師拡大」等の各会議で、全支部長が参加しており意見交換は出来ている。

(8) 出前講座担当者会議

本部と関東甲信越支部共催で、支部や県組織の担当者がオンラインセミナーを開催できるよう zoom 勉強会をオンラインにて 8 回にわたって研修会を実施した。

<オンライン勉強会>

	実施日	内容	参加者(名)
1	6 月 27 日	関東甲信越支部が実施中の zoom サロンをデモ	38
2	9 月 5 日	上述の手順を説明	30
3	10 月 10 日	少人数での Zoom 操作の説明	3
4	10 月 12 日	同上	4
5	10 月 22 日	同上	4
6	11 月 10 日	同上	2
7	11 月 18 日	同上	4
8	11 月 21 日	関東甲信越支部の zoom サロンで最終確認	17
		計	102

２．登録管理事業

会員自らの終末期意思を書面で表明した「リビング・ウイル（終末期医療における事前指示)」の登録と管理を行う事業

(1) 会員情報

令和３年度は、新入会が 2,159 名（前年度 2,664 名)、退会等が 8,403 名(前年 8,227 名)で、対前年比で 6,244 名(前年 5,563 名)と大きく減少した。

<会員種別の年度別推移>　　（単位：名）

項目	29 年度	30 年度	31 年度	2 年度	3 年度	前年差異
正会員	39,669	44,150	47,237	47,437	46,550	▲887
夫婦会員	32,114	30,100	27,940	25,676	23,544	▲2,132
終身会員	4,502	4,566	4,646	4,694	4,723	29
減額会員	33,875	30,339	26,385	22,838	19,584	▲3,254
合計	110,160	109,155	106,208	100,645	94,401	▲6,244

<支部別会員数推移>　　(単位：名)

項目	2 年度	新入会	退会					3 年度	対前年
			死亡	退会	3 年未納	調整	退会計		
北海道	5,032	82	118	133	180	▲6	425	4,689	▲343
東北	3,264	76	80	84	129	1	294	3,046	▲218
関東甲信越	56,356	1,174	1,480	1,103	1,951	12	4,546	52,984	▲3,372
東海北陸	9,374	201	242	207	399	▲5	843	8,732	▲642
関西	14,707	394	384	316	607	▲18	1,289	13,812	▲895
中国地方	2,932	65	72	52	99	▲5	218	2,779	▲153
四国	1,869	31	39	44	84	3	170	1,730	▲139
九州	7,111	136	167	146	297	8	618	6,629	▲482
計	100,645	2,159	2,582	2,085	3,746	▲10	8,403	94,401	▲6,244

※令和３年度新規入会予算は、5,000 名

※ ２年度実績　106,208　2,664　2,821　2,002　3,721　▲317　8,227　100,645　▲5,563

※調整とは、会員の引越、退会取消等による誤差

<新規入会者年齢別構成>　　（単位：名）

年齢	2年度		3年度	
	入会者数	構成比(%)	入会者数	構成比(%)
10代	0	0.0	0	0.0
20代	10	0.4	11	0.5
30代	22	0.8	23	1.1
40代	108	4.1	73	3.4
50代	274	10.3	262	12.1
60代	494	18.5	419	19.4
70代	1,033	38.8	744	34.5
80代	668	25.1	561	26.0
90代	55	2.1	66	3.1
100代	0	0.0	0	0.0
総計	2,664	100.0	2,159	100.0

<5年毎の新規入会者の平均年齢>　　（単位：歳）

入会年度	男性会員	女性会員	平均年齢
1976年～1980年	57.9	55.8	56.9
1981年～1985年	63.9	61.4	62.5
1986年～1990年	64.6	63.2	63.6
1991年～1995年	64.1	63.2	63.5
1996年～2000年	66.7	65.9	66.1
2001年～2005年	68.9	68.4	68.6
2006年～2010年	70.3	69.8	70.0
2011年～2015年	72.1	71.6	71.8
2016年～2020年	72.2	71.4	71.7
2021年～2022年	72.5	71.0	71.5

(2) 会報等新規返戻者の住所解明報告

① 会費3年未納による退会（移転先住所不明、会費3年未納による退会)が多くなり、初期段階からの解明作業を継続実施している。その結果は、下表のとおりである。

② 毎号の会報に、「住所を変更された場合はお知らせください」の記事を掲出し、会員への呼びかけを実施している。

<新規返戻者の住所解明結果>　　（単位：件）

年月	解明				解明不可					計	解明率（%）
	解明済	死亡	退会	解明計	ｺｰﾙのみ	電話不使用	電話登録無	非居住	未解明計		
4月号	30	5	3	38	38	154	16	14	222	260	14.6
7月号	54	2	1	57	48	244	22	1	316	373	15.3
10月号	48	6	4	58	41	208	24	9	282	340	17.1
1月号	29	6	3	38	49	198	10	3	260	298	12.8
計	161	19	11	191	176	804	72	28	1,080	1,271	15.0

(3) 口座振替件数の推移

会費の入金経路の利用は、コンビニ、郵便局の順であるが、口座振替が微増している。毎号の会報に「会費の自動払込のご案内」を告知した効果がでている。

<年会費入金経路 > 令和4年3月31日現在　　（単位：件、%）

請求月	払込件数	(内訳) コンビニ	(内訳) 郵便局	(内訳) 口振	(内訳) 銀行等	コンビニ率	郵便局率	口振率	銀行率
3.4	17,537	9,850	6,914	716	57	56.2	39.4	4.1	0.3
3.7	13,694	7,777	5,162	685	70	56.8	37.7	5.0	0.5
3.10	12,507	7,100	4,502	690	215	56.8	36.0	5.5	1.7
4.1	12,473	7,315	4,208	678	272	58.6	33.7	5.4	2.2
計	56,211	32,042	20,786	2,769	614	57.0	37.0	4.9	1.1
2年度実績	57,092	32.551	21,327	2,406	808	57.0	37.4	4.2	1.4

(4) WEB入会システムからの入会者拡充

平成29年から開始したWEB入会登録数が1,000名の大台に達した。40代～70代の入会が多く、徐々に若年層入会の効果がでている。

<WEB入会システム入会者数>　　（単位：名、%）

年代	年度別入会者数					入会者数累計			
	29年	30年	31･1年	2年	3年	正会員	終身会員	計	構成比
10代		1				1	0	1	0.0
20代	1	5	5	7	6	23	1	24	2.3
30代		10	13	10	7	39	1	40	3.7
40代	3	51	35	44	26	152	7	159	14.9

50 代	4	82	66	87	45	274	10	284	26.6
60 代	9	67	68	87	52	271	12	283	26.5
70 代	2	47	55	64	48	208	8	216	20.3
80 代		6	10	22	18	54	2	56	5.2
90 代			1	2	2	5	0	5	0.5
総数	19	269	253	323	204	1,027	41	1,068	100.0

(5) 次期会員管理システムの稼働

令和 2 年 10 月から開発してきた次期会員管理システムは、これまでの協会内サーバーからクラウド化へ変わり、基幹会員管理システム、ドキュメント管理システム及び、WEB 会員管理システムの構成で稼働している。

	システム名	稼働予定	本稼働	備考
1	基幹会員管理	令和 3 年 9 月	令和 3 年 8 月 30 日	稼働中
2	ドキュメント管理	令和 3 年 10 月	令和 3 年 9 月 30 日	稼働中
3	WEB 会員管理	令和 3 年 11 月	令和 3 年 12 月 23 日	稼働中

3．調査研究及び提言事業

国内外の終末期における医療のあり方・選択、リビング・ウイル等に関する調査、研究及びこれらの情報・研究に基づいて社会への提言を行う事業

(1) 日本リビングウイル研究会

① 終末期のあり方に関して、医師、患者、関係者及び聴講者等の生の声に基づく情報収集や調査及び研究活動の場として、本部と支部で「日本リビングウイル研究会」を開催した。本部開催の研究会での各パネリストの報告・提言内容は、会報 No185(2022 年 4 月号)に掲載する。プログラムは、以下のとおりである。

部署	日程	内容
本部	令和 3 年 12 月 11 日(土)	第 10 回日本リビングウイル研究会(オンライン会議) テーマ：レジリエンス＝パンデミックから立ち直る力 開催方式： zoom(非公開) 挨拶：岩尾總一郎代表理事 コーディネーター：満岡　聰理事 パネリスト ・シャボットあかね氏（安楽死問題の研究者） 　演題　レジリエンスとポジティブヘルス

		・松田　純氏（静岡大学名誉教授／哲学者） 演題　価値観と文化の多様性に向き合う生命倫理の立場から ・平林池保子氏（看護師／日本尊厳死協会医療相談員） 演題　協会医療相談から ・高宮有介氏（昭和大学医学部教授） 演題　レジリエンスの実行 ディスカッション

部署	日程	内容
九州支部	令和４年 3 月 5 日(土) 14:00～16:00	第 7 回日本リビングウイル研究会九州地方会 参加者：104 名 テーマ：コロナ禍でのリビングウイルの現況 ～在宅医療、介護施設、行政の現場から～ 開催方式： zoom ウェビナー 開会挨拶：白髭　豊氏（九州支部長） 司会：有永信哉氏（大分県組織副会長） 講演１　小野隆宏氏（ハートクリニック院長） 演題「在宅医療における ACP（人生会議）の実践」 講演２　安藤美穂子氏（介護老人保健施設和光園看護師長） 演題　「コロナ禍での安らかな最期を支援・そしてこれから」～ACP と看取りケア実施後のアンケートを通じて～ 講演３　岡江晃児氏（杵築市医療介護連携課 事業推進係、杵築市立山香病院 地域連携室） 演題　「行政における ACP の取り組み」 ～きつき終活応援プロジェクトを通じて～ 閉会挨拶： 川野克則氏（大分県組織会長） 後援： 大分県医師会、大分郡市医師会、大分県看護協会、大分県老人保健施設協会、朝日新聞大分総局、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、大分合同新聞社

(2) 人生の最終段階における臨床経過並びに死の兆候に関する研究

協会の LW 受容協力医師から死の兆候に関する情報を提供していただくアンケートを行ったが、医師からの看取りについての回答が 220 名強であることから、次年度も継続してアンケートを実施する。

(3) 尊厳死についての発言－国会議事録から

1976 年の協会創立時方針の一つに、尊厳死の法制化がある。創立から 45 周年を経た今、協会活動を振り返り、過去の国会議事録から、尊厳死についての議論が衆参両院でいかになされてきたかを掲載した。

(4) 死の権利協会世界連合

① 協会が加盟している世界組織「死の権利協会世界連合」(オブザーバーを含め世界 26 ヶ国、52 団体)の加盟団体との現状把握、情報収集および情報交換を行った。直近では、スイスの自殺ほう助を合法化すべきと主張する 6 団体は、11 月 2 日の「死の権利記念日」に併せ、議員への呼びかけとして、「市民の終末期の選択を尊重してください」という声明をホームページに公開した。

② 死の権利協会世界連合世界大会は、令和 3 年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止より中止となり、令和 4 年度は 11 月にカナダのトロントでの開催を予定している。

(5) ご遺族アンケート集計結果

令和 3 (2021)年（令和 3 年 1 月～同年 12 月)の「ご遺族アンケート」がまとまり、会報 No185 号(令和 4 年 4 月）に掲載する。同アンケートでは、亡くなられた会員のご遺族 635 名からご協力をいただき、協会リビング・ウイルが役立ったか否かについては 93%のご遺族がリビング・ウイルの効果を認めている。

<LW は受け入れられましたか>　532 人からの回答

順位	相談項目	割合(%)
1	十分受け入れられたと思う	74
2	どちらかといえば受け入れられたと思う	19
3	分からない	5
4	どちらかといえば受け入れられなかった	1
5	全く受け入れられなかった	1
	計	100

<LW はご家族にとってどう意味をもちましたか>(複数回答)

内容	人数(人)
本人の意思の実現	401
家族の迷いを払拭	348
医師とのコミュニケーション	208
本人の安心	195
その他	31

＜提示先は>(複数回答)

内容	人数(人)
病院担当医	363
施設の職員	152
看護師	146
在宅訪問医	125
施設医	115
かかりつけ医	98
救急隊員	34
その他	17

<提示時期は>(複数回答)

内容	人数(人)
入院／入所	287
普段から	171
体調悪化	129
終末期	83
植物状態	8

<提示方法は>(複数回答)

内容	人数(人)
口頭	307
カード	231
宣言書	106

(6) 若い世代の方々との情報交換活動

当初の計画では、若い世代の方々と協会活動の在り方について情報共有・意見交換をするため、Web セミナーを開催するとあったが、コロナ禍で医師としての活動を最優先としたことから実現できなかった。

(7) 提言活動

① 本部が令和 3 年 12 月 11 日に開催した第 10 回日本リビングウイル研究会では、「予期しないことが連続して起こるコロナ禍では、思い通りの最期を迎えることが難しくなっている状況のなかで、リビング・ウイルを書いておくことの重要性があらためて浮かび上がっていると提言した。

② 令和 3 年 11 月 8 日に発信した協会ニュース「新型コロナウイルスの流行が落ち着いている今、皆さまにお伝えしたいこと」では、予後が推測しやすい病気の場合はゆっくり考えるこ

とが可能でも、新型コロナウィルスによる感染症には、余裕はないので感染の流行が落ち着いている今こそ、自分の最期について考え、家族と話し合い、気持ちを共有する時間です。協会が訴え続けている「自己決定権に基づいた医療選択」をリビング・ウイルという文書に記録するべきと時と提言した。

③ 会報7月号（No182号)では、令和3年3月24日(水)に「終末期における本人意思尊重を考える議員連盟」が、172名の国会議員で再始動した記事を取り上げた。鈴木裕也元副理事長が「国民の望む穏やかな看取りの実現に向けて」と題した講演を行い、法制化の必要性を強く訴えた記事が掲載された。

4．管理部門

(1) 役員等の改選

第14回評議員会が令和3年6月12日に開催、役員等が改選された。同時に、和田監事の辞任の申し出があり、新たに大月監事が承認された。

理事

	役職	氏　名	略歴(職業・現財団役職)
重任	代表理事	岩　尾　　總一郎	医師、元厚生労働省医政局長
重任	副理事長	長　尾　　和　宏	医師、医療法人裕和会理事長
重任	副理事長	野　元　　正　弘	医師、愛媛大学客員教授
重任	専務理事	北　村　　義　浩	医師、日本医科大学特任教授
重任	理事	安　達　　俊　郎	会社役員
重任	理事	小　川　　純　人	医師、東京大学大学院准教授
重任	理事	小　野　　麻	弁護士
重任	理事	川　名　　理恵子	公益財団法人常務理事
重任	理事	近　藤　　和　子	看護師、ﾏｻﾞｰﾘﾝｸﾞ &ﾗｲﾌﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄ研究所所長
重任	理事	丹　澤　　太　良	公益社団法人理事
重任	理事	土　肥　　理　緒	弁護士、看護師、土肥法律事務所
重任	理事	満　岡　　聡	医師、医療法人満岡内科クリニック理事長
	役職	氏　名	略歴(職業)
退任	副理事長	青　山　邦　夫	弁護士

監事

	氏　名	略歴(職業)
辞任	和　田　　義　博	公認会計士、税理士
新任	大　月　　将　幸	公認会計士、弁護士

(監事新体制)

	氏　名	略歴(職業・現財団役職)
重任	藤　嶋　　喬	元会社役員
重任	茂　木　　敬　司	会社役員
新任	大　月　　将　幸	公認会計士、弁護士　大月公認会計士事務所代表、LL&P 総合法律事務所代表

(2) ＬW改定委員会（ＬW検討委員会からの答申を踏まえ)の発足、4 部会プロジェクト会議開催

① 新しい時代に対応したリビング・ウイル、定款及び組織等を見直す委員会として、理事と支部長からなる「リビングウイル改定委員会」が発足し、6 月 24 日から議論が開始された。

	開催日	テーマ
1	令和 3 年 6 月 24 日(木)	協会リビング・ウイルの改定
2	令和 3 年 7 月 8 日(木)	同上
3	令和 3 年 7 月 22 日(木)	同上
4	令和 3 年 8 月 19 日(木)	定款の改定
5	令和 3 年 8 月 19 日(木)	組織・機能改革
6	令和 3 年 9 月 16 日(木)	同上
7	令和 3 年 10 月 7 日(木)	同上
8	令和 3 年 10 月 21 日(木)	定款の改定

② 令和 3 年 11 月 20 日開催の第 34 回理事会にて付議され、決議された内容は次の通りです。

ア) 定款第 3 条(目的)、第 4 条(事業)の改定は、理事会承認を得て評議員会へ回した。

第 3 条（目的）　この法人は、**人生の最終段階において、自己決定権に基づいた医療選択の権利が保障され、尊厳が損なわれることなく生を全うする社会の実現をめざす**こととことを目的とする。

第 4 条（事業）この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1)　リビング・ウイルの普及啓発事業

(2)　リビング・ウイルの登録管理事業

(3)　**尊厳死の**調査研究及び提言事業

(4)　その他この法人の目的達成に必要な諸事業

2　前項の事業については、日本全国において行うものとする。

イ)「協会リビング・ウイル－終末期医療における事前指示書－」の改定が承認された。

ウ) 組織改革については、定款第 50 条(委員会)に基づき、協会の理念を強力に推進する 4 委員会（①普及啓発、②学術調査研究、③広報メディア、④会員サービス）の設置が承認された。4 委員会は、15 のプロジェクトに分かれ具体的な施策・提案を検討中。併せて、タフト株式会社と、デジタル推進の業務委託契約を行った。

(2) 創立45周年記念誌の作成と発送

会報No181号(令和3年4月号)に、協会設立45周年記念として、これまでの歩みをまとめた「日本尊厳死協会の歴史と役割」の小冊子を同封した。併せて、対面時の講演会やセミナーでの配布や新規入会者への会報に同封し、協会の歴史や活動内容の告知を行った。

(3) 「ウィズコロナ」時代の法人組織の見直し

令和2年11月28日の理事会で「ウイズコロナ時代の法人組織の見直し」の決議による支部の固定費の見直しについては、職員の退職に併せ、北海道支部事務所が令和3年6月末、中国地方支部事務所を令和4年3月末にそれぞれ閉鎖した。本部では、令和4年1月にデジタル業務を推進するため業務委託契約を行った。

(4) 収支決算

① 令和3年度は、経常収益は16,643万円、経常費用は15,364万円で、当期経常増減額は1,300万円で2年連続の黒字となった。指定正味財産増減額を加えた正味財産期末残高は、64,339万円となった。

② 引き続き、会員数の増強のみならず、公益法人としての新たな収入源の開発など、検討を重ねていく必要がある。

<年度別収支>　(単位：円)

項目	30年度	31年度	2年度	3年度	対前年
経常収益計	155,520,535	158,568,728	162,067,292	166,642,815	4,575,523
経常費用計	165,590,188	158,700,423	148,366,965	153,644,260	5,277,295
当期経常増減額	▲10,069,653	▲131,695	13,700,327	12,998,555	▲701,772
一般正味期末残高	613,980,920	613,849,225	627,549,552	640,548,107	12,998,555
指定正味期末残高	3,569,690	2,846,116	2,846,144	2,846,172	28
正味財産期末残高	617,550,610	616,695,341	630,395,696	643,394,279	12,998,583

<経常収益の源泉>　(単位：円)

項目	30年度	比重	31年度	比重	2年度	比重	3年度	比重
受取会費	148,606,000	95.6	147,570,000	93.1	140,785,200	86.9	132,964,800	79.8
受取補助金等	－	－	－	－	－	－	5,303,246	3.2
受取寄付金	2,882,862	1.9	7,215,842	4.6	15,518,651	9.6	27,350,629	16.4
販売事業収益	1,545,546	1.0	2,681,347	1.7	1,555,098	0.9	656,610	0.4
講演料収益	1,132,510	0.7	314,530	0.2	30,000	－	91,000	－
その他	1,353,617	0.8	787,009	0.4	4,178,343	2.6	276,530	0.2
経常収益計	155,520,535	100.0	158,568,728	100.0	162,067,292	100.0	166,642,815	100.0

<受取会費の年度別>　（単位：円）

項目	30 年度	31 年度	2 年度	3 年度	対前年
正会員	77,605,000	82,542,000	82,595,200	81,414,800	▲1,180,400
夫婦会員	41,869,000	38,714,000	36,374,000	32,847,000	▲3,527,000
終身会員	9,644,000	9,208,000	7,034,000	6,178,000	▲856,000
減額会員	19,487,000	17,106,000	14,782,000	12,525,000	▲2,257,000
合計	148,606,000	147,570,000	140,785,200	132,964,800	▲7,820,400

<令和 3 年度受取会費の前受金処理>　（単位：円）

項目	前受金 計上前	前受金	差引後	30～2 年度から の実現	3 年度 実績
正会員	80,827,800	▲4,632,000	76,195,800	5,219,000	81,414,800
夫婦会員	32,835,000	▲78,000	32,757,000	90,000	32,847,000
終身会員	6,178,000	0	6,178,000	0	6,178,000
減額会員	12,577,000	▲154,000	12,423,000	102,000	12,525,000
合計	132,417,800	▲4,864,000	127,553,800	5,411,000	132,964,800

<前受金累計残>　（単位：円）

項目	30 年度残	31 年度残	2 年度残	3 年度残	前受金計
正会員	5,100,000	6,658,000	4,024,000	4,632,000	20,414,000
夫婦会員	24,000	15,000	39,000	78,000	156,000
終身会員	0	0	0	0	0
減額会員	58,000	89,000	157,000	154,000	458,000
合計	5,182,000	6,762,000	4,220,000	4,864,000	21,028,000

(5) 個人情報の法令順守

個人情報取扱事業者として、資料請求者や会員情報等の情報は、個人情報管理規程を遵守し、適切に取扱っている。

Ⅲ. 評議員会・理事会

令和 3 年度開催は、次のとおりである。

▽評議員会

開催日	会議名	議題
令和 3 年 6 月	第 13 回定時評議員	<決議事項>

12 日（土）	会 (Zoom)	・令和 2(2020)年度事業報告及び収支決算承認 ・任期満了後の理事選任、監事選任の承認 <報告事項> ・令和 3(2021)年度事業計画、収支予算及び資金運用計画の報告 ・協会受容協力医師へアンケートを実施する件 ・日本財団助成金事業「終末期医療に関する意思表明支援」進捗報告

▽理事会

開催日	会議名	議題
令和 3 年 5 月 22 日（土）	第 32 回定時理事会 (Zoom)	<決議事項> ・令和 2 年(2020)度事業報告及び収支決算承認 ・倫理委員会の設立承認 ・第 13 回定時評議員会を招集承認 <報告事項> ・協会受容協力医師へアンケートを実施する件 ・日本財団助成金事業「終末期医療に関する意思表明支援」進捗報告 ・「ウイズコロナ」時代の法人業務見直しの進捗報告 ・北海道支部事務所廃止に伴う対応報告 ・令和 2 年度リビングウイル電話医療相談報告 ・理事による職務執行状況報告
令和 3 年 6 月 12 日（土）	第 33 回臨時理事会 (Zoom)	<決議事項> ・代表理事及び副理事長選任、執行理事への担当業務委嘱、理事への支部長委嘱承認 ・支部長の選任、退任承認 ・リビングウイル検討会からの答申を受け、検討分科会の設立承認 ・令和 2 年度監査報告及び令和 3 年度監査計画承認
令和 3 年 11 月 20 日(土)	第 34 回定時理事会 (Zoom)	<決議事項> ・定款第 3 条(目的)、4 条(事業)改定承認　特別決議 ・リビング・ウイル(終末期医療における事前指示書)の改定承認 ・LW 改定委員会の決議に基づく 4 委員会(部会)の設置承認

		・支部運営規程の改定承認 ・中国地方支部からの支部廃止決議報告の承認 <報告事項> ・第 49 回衆議院議員選挙での「終末期議連」の状況報告 ・厚労科研事業 東大との「人生の最終段階における臨床経過および死の兆候に関する検討」進捗報告 ・日本財団助成金事業「小さな灯台プロジェクト」進捗報告 ・TBS ラジオ「アシタノカレッジ」収録放送報告 ・令和 3 年度中間予測収支報告 ・次期会員管理システム稼働報告 ・第 10 回 本部主催 日本リビングウイル研究会開催告知の報告 ・令和 3 年度上期　LW 医療電話相談集計報告
令和 4 年 3 月 12 日（土）	第 35 回定時理事会（Zoom）	<決議事項> ・令和 4 年度事業計画、収支予算案及び資金運用計画方針承認 ・中国地方支部支部事務局閉局に伴う当面方針承認 ・北海道支部のパソコン購入による資産計上承認(事後承認) <報告事項> ・4 部会の進捗報告(普及啓発、学術調査研究、広報メディア、会員管理・サービス) ・「ウイズコロナ」時代の法人業務見直しの進捗報告 ・【第 2 弾】TBS ラジオ「アシタノカレッジ」収録放送報告 ・令和 3 年度最終予測収支報告

以上